

雌阿寒岳

1 概況（平成 14 年 6 月）

今期間は静穏に経過しました。長期的に見ると時々地震が増加したり、ポンマチネシリ 96-1 火口では高温の状態が続くなど火山活動は高いレベルを維持しています。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は平常と変わりなく火口上概ね 100m 程度で推移しました。その他の火口についても特別な変化はありませんでした。

3 火口・地熱地帯の状況

6 月 4 ~ 6 日に調査観測を実施しました。ポンマチネシリ 96-1 火口では高温の状態を維持していますが、噴気の勢いが弱まったため定点から測定した温度はやや低下しました。

【ポンマチネシリ火口】

・96-1 火口（写真 1 ~ 3）

東側火口縁の定点（距離約 37m）から赤外放射温度計*で測定した火口底の最高温度は 352 で、噴気の勢いが弱まったため、昨年 9 月（433）に比べてやや低下しました。しかし、噴出口が直接見える北側火口縁（距離約 50m）からの測定では 461、道立地質研究所が熱電対温度計で直接測定した火口底の温度は 546 と引き続き高温であることを確認しました。噴出直後の火山ガスは透明～やや青味を帯びていますが次第に白色に変化し、刺激臭を伴っています。噴気音は認められませんでした。

・赤沼西方噴気孔

はっきりした噴気音を伴い、勢いよく噴気しています。噴気の状態や周辺の変色域、地熱域の広がりなどに変化はありませんでした。

・その他の火口

第 1 火口、第 3 火口、第 4 火口などでは弱い噴気活動と地熱活動が続いています。

【中マチネシリ火口】

火口内には多数の噴気孔があり、約 800m 離れた山頂から噴気音を確認できるほど勢いが強いものもありましたが、従来と同様で特に活発化した様子はありません。

* 赤外放射温度計

物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、値は測定条件や距離によって変わり、実際の温度とは必ずしも一致しない。

4 地震活動の状況

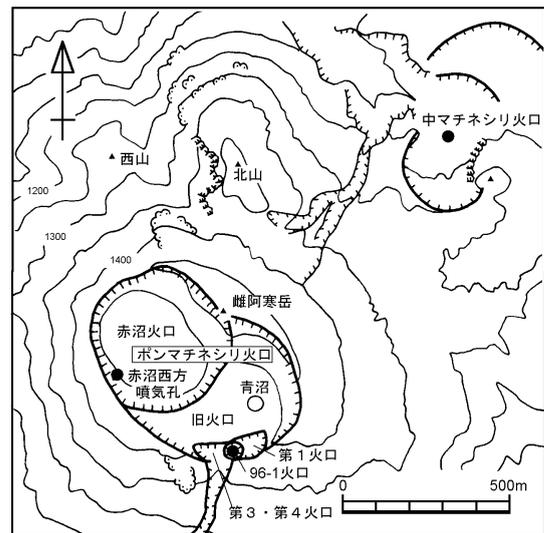
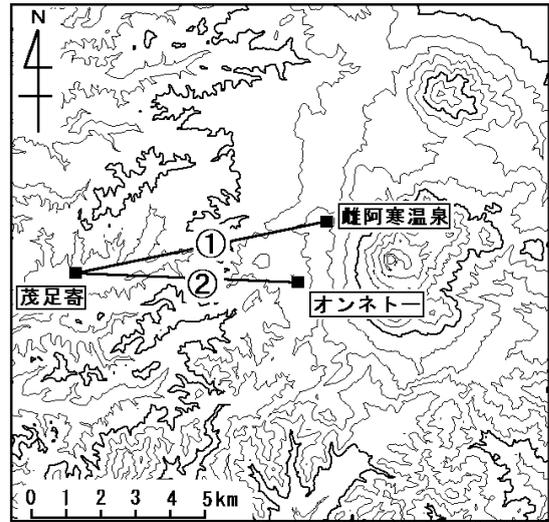
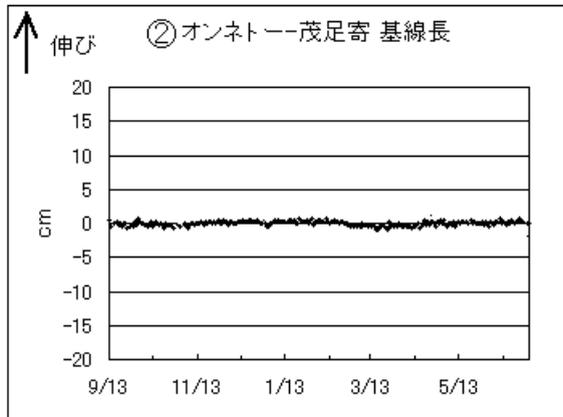
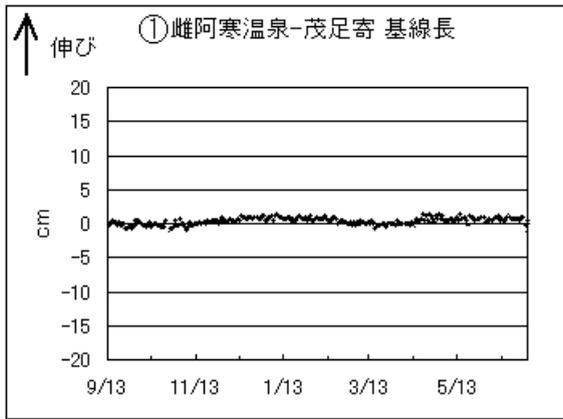
火山性地震の増加や火山性微動はありませんでした。地震回数は 1 日あたり 0 ~ 3 回と平常レベルで推移しました。

月別地震・微動回数（B 点）

平成 13 ~ 14 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
地震回数	181	242	53	29	56	18	21	39	204	17	11	20
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

5 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。



雌阿寒岳基線長グラフ（2001年9月13日
～2002年6月30日）

雌阿寒岳火口周辺図



写真 1
東側から見た 96-1 火口（手前は第 1 火口）
（ 6 月 6 日 ）

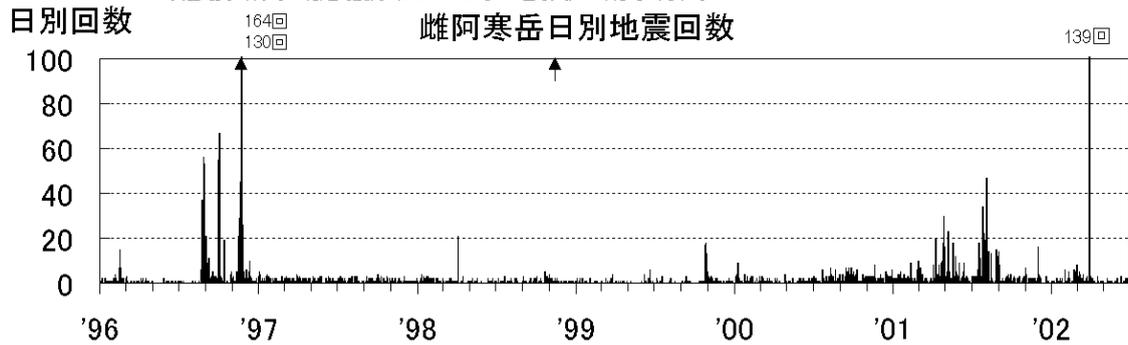
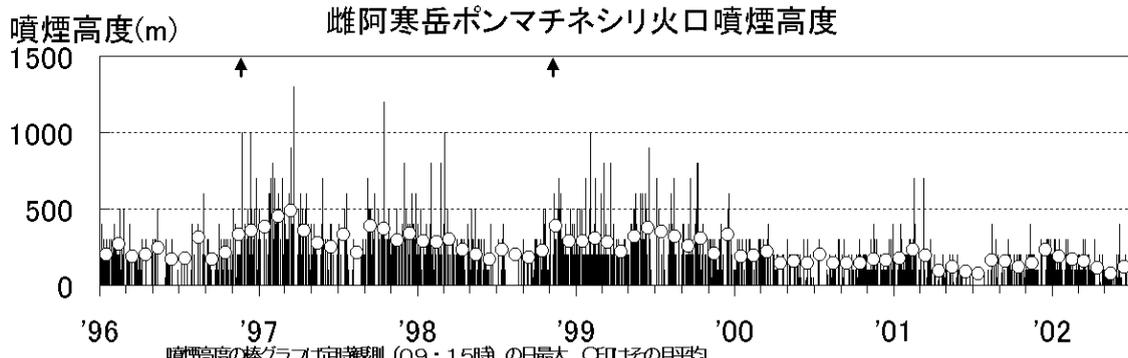
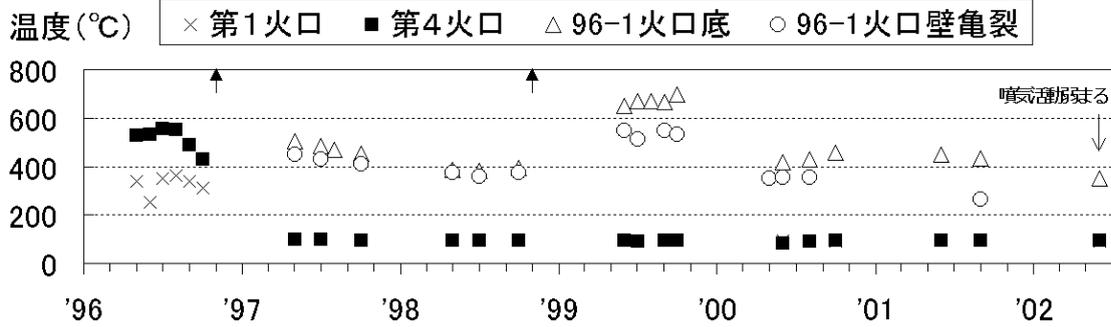


写真 2
東側定点から見た 96-1 火口底の状況
（ 噴出口が直接見えない ）
赤外放射温度計による最高温度は 352
（ 6 月 6 日 ）



写真 3
北側火口縁から見た 96-1 火口底の噴出口
赤外放射温度計による最高温度は 461
（ 6 月 6 日 ）

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳火山活動経過図（1996年1月1日～2002年6月30日） 印は噴火